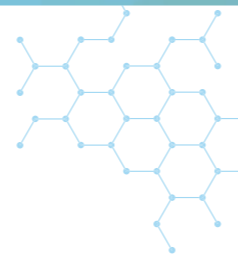


平成29年度 後援会事業計画



1. 教育助成

入学関連

- 入学式
- 新入生オリエンテーション
- 大学入門ゼミ
[平成29年4月15日]

大学説明会関連

- オープンキャンパス
[平成29年7月29日・10月28日]

教育関連

- 新入生ふれあい朝食会
[平成29年4月10日～14日]
- 2年次学生と教員との懇談会
- 優秀学生表彰
- 看護学専攻・検査技術科学専攻へ助成
- 全学共通教育協力金へ助成

2. 国家試験対策

- 看護師等国家試験対策模試
- 臨床検査技師国家試験対策模試

3. 就職対策

- 教員による病院等の就職先への訪問

4. 医学部国際交流助成

- 国際交流協定校との交流

5. 文化行事援助

- 錦祭

6. 後援会運営

- 保健学科広報「アレスコ」発行
- 後援会役員会

編集後記

鳥取大学医学部保健学科広報 アレスコ (ALESCO) 第16号を発刊いたしました。

今号は、写真で綴る大学入門ゼミ、医学部長・保健学科長からのご挨拶に続き、保健師・助産師・教員・臨床検査技師として幅広い分野で活躍している卒業生からの寄稿文を紹介いたしました。また教育活動では在校生が参加した学会報告とスキルアップに向けて努力する卒業生の声を掲載しています。

ささやかではございますが、保護者及び関係各位の皆様には、アレスコの1つ1つの記事を通じて、保健学科の「成長・発展(アレスコ)」の姿、ご子息、ご息女の学生生活の一端を感じ取っていただければ幸いに存じます。

保健学科広報委員 池田 智子

[発行責任者] 鳥取大学医学部保健学科後援会・鳥取大学医学部保健学科広報委員会
[発行所] 鳥取大学医学部保健学科(〒683-8503 鳥取県米子市西町86番地)
[発行年月] 平成30年2月



アレスコ【ALESCO】とは古代ラテン語で

「成長する、発展する」という意味です。

INDEX

写真で綴る大学入門ゼミ	02
医学部長挨拶	04
保健学科長挨拶	05
卒業生だより	06
●保健師・助産師として活躍する卒業生	
●教員・臨床検査技師として活躍する卒業生	
講座紹介	08
●基礎看護学講座 ●成人・老人看護学講座	
●母性・小児家族看護学講座 ●地域・精神看護学講座	
●生体制御学講座 ●病態検査学講座	
教育活動1 実験を通して科学の面白さに触れる授業	11
教育活動2 学生学会参加報告	12
●思春期ピアカウンセリング全国大会in鳥取	
●日本認知症予防学会学術集会	
スキルアップ	13
学術・研究活動	14
●国際学会報告	
●最近の研究活動と書籍の出版	
地域貢献活動	15
●たのしいすぎ会	
●にちなんふる里まつり 出前科学実験教室	
新任・退職教員からのメッセージ	16
平成29年度卒業研究演題一覧	17
平成30年度学年暦・学級委員	18
平成28年度後援会事業報告・平成29年度後援会役員名簿	19
平成29年度後援会事業計画・編集後記	20



写真で綴る「大学入門ゼミ」

入学したばかりの1年生が、これから充実した学生生活を送れるように、「大学入門ゼミ」(全学共通科目・必修)が開講されました。入門ゼミでは、米子キャンパスの見学や医学部スポーツ大会など、さまざまな研修が行われました。

保健学科長のあいさつ

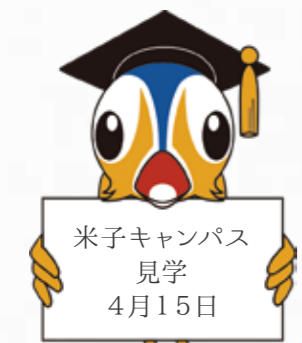
みなさん、入学おめでとうございます！
ようこそ！米子キャンパスへ。
今日は1日、しっかり楽しんで下さいね。

米子キャンパスの紹介

今日はいい天気だなあ～
いよいよ、病院見学に出発だ！

米子ってこんな所なんだ～

鳥取大学医学部附属病院の見学



外来化学療法室



救命救急センター



検査部



外来棟の総合受付

見学を
させていただき
ありがとうございました！



緊張も和らいで
みんなの笑顔が
眩しいね！

2年生と一緒に昼食



昼食後はグループワーク ～上級生との懇談～



自己紹介
大学で学びたいこと
サークル活動について
一人暮らしについて
講義について……



話し合ったことを班で
まとめて発表しました

環境教育～ゴミの分別～

ゴミの分別に関する
小テストをします！
合格者には修了書を
授与します。



合格！
おめでとう！



健康的で活き活き
とした学生生活を送ろうね！
学科を超えた交流は
できたかな？



医学部
スポーツ大会
6月3日



バレーボール



テニス



サッカー



バドミントン

医学部長挨拶

保健学科の将来に寄せて

医学部長 廣岡 保明



鳥取大学医学部は医学科、生命科学科、保健学科の3つの学科から成り、その中で最も新しく平成11年に改組・設置されたのが保健学科であります。その歴史は古く、大正14年にできた財団法人西伯郡米子病院 看護婦・産婆養成所を起源としております。その後、平成16年には大学院の保健学専攻修士課程、平成20年には保健学専攻博士後期課程が設置されました。保健学科には看護学専攻と検査技術科学専攻の2つがあり、平成29年3月までで約1800名弱の卒業生が国内の医療機関、自治体、企業、教育研究機関のみならず海外においても活躍しております。このように活躍できるのも、歴代の保健学科教職員のご尽力と保健学科後援会の皆様方の多大なるご協力、ご支援によるものであり、鳥取大学医学部を代表して厚く御礼申し上げます。

さて、医学部のミッションの1つは、質の高い医療人を養成し、山陰の医療を守る事にあります。その中で保健学科の果たす役割は非常に大きく、看護師、保健師、助産師、臨床検査技師などの医療人の養成のみならず、さらなる質の向上のため附属病院とも連携し、認定看護師、専門看護師、超音波検査士、細胞検査士、認知症専門検査技師など、種々の専門資格の取得支援、さらには在宅医療のための訪問看護師育成や、新規に本年度より特定看護師を養成するなど、今後も継続して人材育成に注力していきたいと存じます。また、平成30年度より公認心理師が新たな国家資格として制度化されたのに伴い、大学院の臨床心理学専攻学生への教育にも保健学科教員が参画することで、より質の高い公認心理師の養成が可能となるものと確信しております。

少子高齢化が進む現在、山陰地方は10年後の日本の状態を具現化していると言っても過言ではありません。鳥取大学医学部はその地域特性を活かしつつ、高齢者がより安心できる高度な地域ケアシステムの構築や急性期病院と介護福祉施設との連携など、将来に向けた取り組みを実施し、地域社会のみならず国際的にも貢献できる人材の養成、社会システムの構築などを目指していきます。

学生の皆さんが、良き市民、そして良き医療人になって卒業できるよう、我々は学生生活全般にわたってサポートしてまいります。後援会の皆様には引き続きご支援、ご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

保健学科長挨拶

社会への貢献と時代への対応

保健学科長 萩野 浩



第15期卒業生を平成30年3月に送り出します。鳥取大学医学部保健学科は平成11年10月1日に鳥取大学医療技術短期大学部(昭和50年4月設置)を改組し設置されました。卒業生の多くは医療、福祉、保健の分野で保健師、助産師、看護師、臨床検査技師として、広く活躍しています。医療スタッフ以外にも、大学や企業の教育者、研究者としても活躍してくれています。これまで保健学科が使命を遂行して社会に貢献できましたのも、卒業生をはじめ、保護者、後援会、同窓会の皆様のご支援、ご協力のおかげであり、心から感謝申し上げます。

さて、この春の卒業生が社会で重要な立場となる2025年は後期高齢者人口が拡大することから、この2025年を見据えて地域包括ケアシステムの構築が進められています。地域包括ケアシステムは、住まい・医療・介護・予防・生活支援の一体的な提供によって、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることを目指すもので、多職種が連携して各地域で医療・介護・予防を実践するチーム医療・介護が必要です。保健学科卒業生の多くがその中心の役割を果たすことになります。そこで学部教育では質の高い専門教育と同時に、コミュニケーション教育に注力し、不安を抱える患者への理解やいたわりの心をもった全人的医療人の育成に努めています。保健学科卒業生が社会の要請に応じて全国各地で多職種が連携するチーム医療に貢献できると確信しています。さらに、在宅医療、介護が今後さらに重要となります。このような背景から保健学科では卒前卒後を通じて在宅志向を持つ看護師育成教育を継続して参ります。

保健学科には平成16年4月に大学院保健学専攻(修士課程)が、平成20年4月には保健学専攻博士課程が設置されました。これまで、がん化学療法看護認定看護師、細胞検査士、超音波検査士、認知症予防専門士、認知症領域検査技師のコースが設置され、高度な技術を身につけた卒業生がそれぞれの分野の指導者となっています。保健学科大学院設置から10年が経ち、研究環境と社会の変化から、現在、医学部大学院教育課程の再編を進めています。医学部の学科や分野の壁を超えた再編によって、社会の中核となりうる全人的医療人(看護師、検査技師、研究者)の育成、教員の養成、診断技術・治療薬開発者の養成、特定行為ができる看護師の養成を目指しています。

保健学科はこれまで以上の社会への貢献を目指して、時代に弾力的に対応し、社会が求める、社会で活躍できる人材の育成に努めて参ります。最後になりますが、保健学科に今後ともご指導、ご支援を御願ひ申し上げます。

卒業生だより

保健師・助産師として活躍する卒業生

汐田 恭未さん 看護学専攻 第9期生

私は現在、南部町役場町民生活課国民健康保険室で保健師として働いています。「ゆりかごから墓場まで」と言われる保健師ですが、その通り、赤ちゃんが生まれたらお家に伺い、大人健康診断や介護の相談まで受け付けます。また、住民さんに接するだけでなく、町の健康課題を分析し、事業の計画も行っています。



そのための幅広い知識や、集団教育の際に住民さんの前で発表する力、住民さんと関係を築き上げていく力、他職種と連携し調整していく力など様々な能力が求められる仕事です。大変なこともありますが、住民さんから「来てもらえてよかった」「健康になれるように頑張るわ」「あなただから相談しようと思った」など直接声をかけていただけるので、とてもやりがいのある仕事だと感じています。



健康教育の様子



休日健診のチラシ

神田 真由さん 看護学専攻 第9期生

看護学専攻第9期生の神田真由です。鳥取大学医学部附属病院で助産師として働き始めて6年目になります。

助産師という、お産というイメージがありますが、実際は分娩介助だけでなく、妊婦さん、産後のお母さんやその赤ちゃんのケアを行っています。さらに妊婦健診・保健指導、女性の健康相談など全ての女性とその家族の健康を支える職業です。

妊娠・出産・育児などの様々な女性のライフステージで、患者さんとその周りの家族はあらゆる問題に直面し、より良い選択ができるようにと悩んでいます。私は医療の知識を持った専門職として、また患者さんの身近な存在として寄り添うことで、意思決定を支援していくことを目標にしています。

今後もその目標を大切に、患者さんの力になれるような助産師として活躍したいです。

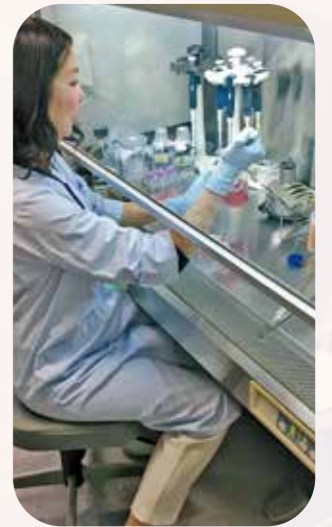


卒業生だより

教員・臨床検査技師として活躍する卒業生

榎原 佳奈枝さん 検査技術科学専攻 第2期生

はじめまして、検査技術科学専攻第2期生の榎原です。私は鳥取大学卒業後、岡山県内の病院へ就職し、大学附属病院などの総合病院で約10年間臨床現場に携わった後、川崎医療短期大学の助教として現在勤務しています。学生時代から大学教員に興味はありましたが、「これからの時代、臨床現場を知っている教員が求められるはず!」と思い、大学院進学を思いとどまり、就職しました。当時はかなり悩みましたが、今ではこの選択に誇りを持っています。様々な規模の病院で多岐にわたる分野を経験する中で、自分が一番やりたいもの(私の場合、血液学)を見つけることができました。学生教育と研究活動の両立は大変ですが、真に医療現場で求められる臨床検査技師を輩出できるよう日々励んでいます。



加藤 優佳さん 検査技術科学専攻 第11期生

第11期卒業生の加藤優佳です。私は楽しかった大学生生活に別れを告げ、実家のある香川県の高松赤十字病院に就職しました。今は初期ローテーションを経て、一般検査に配属され、形態学の奥深さを感じながら業務にあたっています。ローテーション中は部署が変わるごとに基本から学び、常に新しい気持ちで取り組んでいました。今年度で4年が過ぎ、私が後輩に指導する機会が増え、教えることの難しさを痛感しています。検査の内容や原理だけでなく、それが患者さんの病態にどのように関係しているか、臨床現場に求められる検査技師としての対応は何か、質問される度に私も勉強する毎日です。

課外活動として、病院が開催する世界糖尿病デーのイベントにスタッフで参加し、地域の方々とふれあいました。そこで、来て頂いた皆さんの糖尿病について知ろうとする意識の強さを感じ、このような地域連携型のイベントの開催および参加は大切だと改めて思いました。

今後は認定一般検査技師の資格取得を目標に、増える後輩たちに頼ってもらえるような先輩を目指して、日々励んでいきたいと思っています。



看護学専攻紹介 各講座のトピックス

基礎看護学講座

■英語を自分のものにしていこう!

Timothy Lewis Wiltshire (ティモシー・ルイス・ウィルシャー)

基礎看護学講座には、生命倫理、英語を専門に教授する教員も所属しています。私は医療英語の授業を担当しています。医療英語を学ぶうえにおいて最も必要なことは、日本語を話せない患者さんとコミュニケーションがとれるようになることです。多くの外国人患者は、自分の健康に関する心配やニーズを表現するための簡単な英語を知っています。医療職者が十分に基本的な医療英語を知っていれば、すぐに外国人患者の助けになることができます。

「英語が話せない」から「英語を話せる」に!

"English is mine!" "My English is GOOD ENOUGH!" "Learning never ends."



英語を楽しく学ぶコツ!

1. 外国を旅する。できれば、1年間くらい外国に住んでみる。
2. 日本に住んでいる外国の友達を作る。彼らは日本のことをもっと知りたいと思っています。
3. 英語で日記を書く。新しい単語を勉強し、書いて表現することが上達の秘訣!
4. 本、新聞記事など、英語の記事を読む。
5. 英語であなたが知っていることやひとり言を言ってみる。
6. 自分の英語を録音する。ネイティブの音を真似してみよう!



成人・老人看護学講座

■成人・老年期にある人々の健康を支える看護を学ぶ

谷村 千華

当講座では、成人期・老年期の対象の看護に関する教育や研究、地域貢献に取り組んでいます。近年、慢性疾患を持つ患者さんの数が増加しています。慢性疾患とは、糖尿病や高血圧に代表される長期間にわたって治療が必要な病気の総称です。看護の中心は、患者さんに、自己管理(食事や運動、症状管理など)の知識やコツを提供し、生活の質の向上を目指すことです。現在、病院、施設、周辺地域、そして海外(フィリピン)において、慢性疾患を持つ患者の保健教育や看護実践に取り組んでいます。このような活動の中で、目的をもって生き生きと学び、行動する学生の姿がとても印象的です。



膝いきいき教室
(変形性膝関節症を持つ人々の自己管理を支える:米子市)



新興国での糖尿病
予防プロジェクト(フィリピン)

母性・小児家族看護学講座

■小児家族看護学実習の紹介

遠藤 有里

小児家族看護学実習は、発達段階と健康レベルに応じた子どもとその家族への支援について理解し、それぞれに適した看護を実践することを目的としています。3年次後期の保育園実習・附属病院病棟実習では、普段子どもと触れ合う機会が少ない学生たちが、実際に子どもたちと一緒に時間を過ごしなが、いきいきと楽しく臨地実習に取り組んでいることが、その笑顔からも伝わってきます。学生たちは、子どもたちとの貴重な体験を通して成長・発達・健康問題について理解し、小児家族看護の意義を見出していきます。そして、実践の知を大切に共有し、さらに学びを深めていきます。



地域・精神看護学講座

■公衆衛生看護学教育の新しい取り組み

松浦 治代

今年度、これまでの「過疎地看護演習」を「住民活動と健康」(2年生選択科目)として開講しました。公衆衛生看護は住民さんのよりよい健康、保健、予防に重点を置いています。しかし、学生にとって、その活動は非常にイメージしにくいようです。学年進行の早期から、住民主体の地域活動の場面を題材に、地域保健活動の基盤となる「まちを知る」「住民さんを知る」基礎的な方法論を学び、市に出かけ、住民さんから活動の実際を教えてください。決して支えられるだけの存在ではなく、地域保健活動において重要なパートナーである地域住民のパワーを実感し、公衆衛生看護活動への関心を高める機会としたいと考えています。



検査技術科学専攻紹介 各講座のトピックス

生体制御学講座

■担当科目の紹介

上田 悦子

鳥取キャンパスで学ぶ1年生の基礎医学系の科目「栄養と代謝」を、また米子キャンパスで2年生の「分析検査学」「分析検査学実習」を担当しています。どちらも私たちの体内での生化学的な現象の「理論」と「臨床」をつなぐ科目です。病気にならない方法を知り(疾患予防)、病的な状態から回復する手立て(治療)を考えるうえで欠かせない知識を、化学的手法でアプローチします。

また、高度な分析機器が導入された医療現場において、正しい技術を提供できる技師の存在は重要です。特にマイクロリットル(μL)という微量の検体を扱うことが多いので、実習では様々な実験を通して正確な分析操作ができることを目指しています。



病態検査学講座

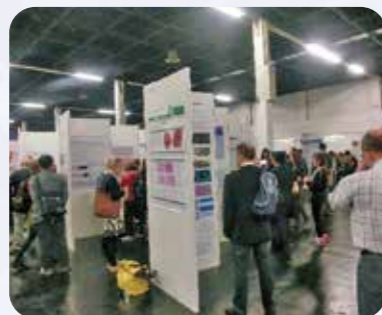
■European Congress of Pathologyに参加して

松下 倫子

毎年、ヨーロッパで病理の国際学会が開催されています。この学会は世界各国の方々が参加され、私は時間の許す限り参加し、研究発表をしています。

2017年はオランダ(アムステルダム)で開催され、私は研究発表を行いました。

学会会場では各国の研究者が、様々な分野の研究を発表し、質疑応答等で毎年非常に盛り上がります。今回、私は自分の研究を発表することが出来、海外の研究者から沢山のご意見、ご質問を頂き、非常に有意義且つ貴重な時間を過ごさせて頂きました。学会会場で話される言語は当然英語になりますが、行くたびに英語力の不足、重要性を痛感し、英語力の向上に力を注がねば!と思い帰国します。学会で得た知識などを授業の中で学生の皆さんに伝えて行こうと思います。



教育活動1

実験を通して科学の面白さに触れる授業

科学実験演習

成人・老人看護学講座 片岡 英幸

科学実験演習は看護学専攻1年生後期にある科目で、11のグループに分かれて、グループごとにいろいろな実験を体験しています。今年度、私の担当しているグループでは「高速度カメラを用いた実験」を行いました。当日は、ミルククラウン現象や風船が破裂する瞬間などを撮影しました。ミルククラウン現象とは、皿に入れたミルクの表面にミルクを1滴垂らすと王冠ができる現象です。学生達は、粘張度を変えて王冠の形が変わる様子確かめていました。風船の破裂は一瞬で、はじめは破裂する前や破裂した後しか記録されていませんでしたが、何度もトライし、上手く破裂の瞬間が記録されるまで頑張りました。



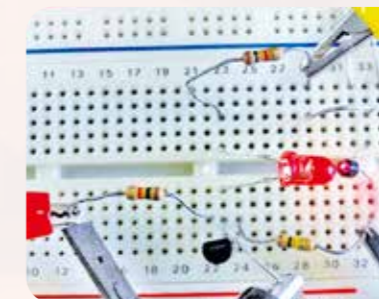
光センサーを題材とする科学実験

生体制御学講座 藤原 伸一

「医用工学実習(検査2年)」では、実際に電気回路を組みながら、様々な電子部品への理解を深めてもらいます。光センサーの実験では、まず、発光ダイオードの点滅速度を発振器の周波数で変えられる回路を作ります。次に、光の点滅速度を調節し、連続点灯しているように見えるときの点滅速度を測定します。一般に、1秒間に40回程度の点滅が目での識別限度といわれています。次に、光センサー(フォトトランジスタ)に光を当てて同じ実験を行います。目では連続点灯しているように見える1秒間に200回の「点滅」でも、光センサーは点滅として感知できているのを確認します。一連の実験を通して、学生は光センサーの感度の鋭敏さを理解するとともに、センサーの医用機器への応用にも関心を持てるようになります。



発光ダイオードの点滅速度を変えられる回路



発光ダイオードとフォトトランジスタ



「医用工学実習」実習風景

学生学会参加報告

思春期ピアカウンセリング全国大会in鳥取を開催しました

母性・小児家族看護学講座 大島 麻美

医学部ピアサークルPeer in heartでは、鳥取県の支援を受けて平成16年より、同年代の「Peer=仲間」として10代の若者が抱える問題を一緒に考え、寄り添う活動を行っています。大学内で思春期ピアカウンセラーを養成し、鳥取県内の中学校・高校を訪問、性=生について、友人関係等の思春期教育を行い、地域の思春期保健を支えています。

平成29年9月、サークルの学生23名が中心となり第7回思春期ピアカウンセリング全国大会in鳥取を開催しました。全国の同じ活動を行っている大学生総勢60名が集結、交流・情報交換を行いました。



日本認知症予防学会学術集会に参加して

鳥取大学大学院修士2年 生体制御学講座 堀江 悠希さん

私は現在、認知症におけるバイオマーカーについての研究を行っています。これまで学部生時から学会には何回か参加してきましたが、大きな口演発表は今回が初めてでした。学会発表は、単に自分の研究のことを発表するだけではなく、それに対する様々な角度からの幅広い知識が求められます。そのため、多くの知識や刺激が得られ、自分の研究に関する理解をより深めるきっかけになりました。また、学会では外の研究者と直接交流を持つことのできる貴重な機会でもあるため、自分の視野を広げる有意義な機会にもなったと思います。この経験から得られるものは研究だけではなく、今後、社会人となる上でも非常にためになるものだと思います。

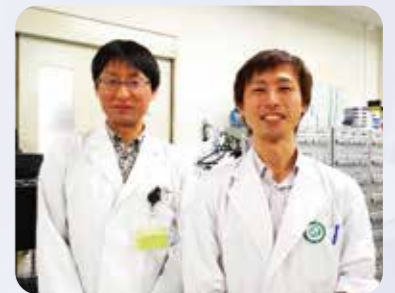


スキルアップ

遺伝子レベルでの病理学的診断

細胞検査士 松重 貴大さん

私は平成21年に鳥取大学を卒業し、縁あって4年前から鳥取大学医学部附属病院の病理部に勤務しています。日々の業務では細胞検査士の資格を活かしながら形態学と奮闘しています。近年、病理学分野では分子生物学的な理解が進み、遺伝子レベルでの病理学的診断が求められるようになりました。その中で、私は業務を通じて遺伝子などの分子生物学にも興味を持ち始め博士前期課程への進学を決意しました。大学院では、研究への取り組み方や遺伝子検査の技術と知識を身につけることができ、充実した日々を送ることができました。これらは、ご指導をしてくださった先生方はもちろん、病理部の上司や先輩の協力があったことなのです。仕事をしながら大学院へ通うことは、研究に費やす時間も限られているため大変なこともありましたが、非常に恵まれた環境に身を置くことができ、自分自身のキャリアアップに繋がりました。



新卒で訪問看護師に挑戦

■在宅ケアが進む看護現場 訪問看護師を目指す学生も増えつつあります

看護師 門脇 智尋さん(旧姓:松本)

私は米子市の訪問看護ステーション博愛で新卒の訪問看護師として働いています。学生の時から、一人一人の利用者様にじっくりと関わることのできる訪問看護に憧れ、思い切ってこの道を選びました。実際、訪問看護師として働くことは想像よりも難しく、経験や知識のなさ、病棟の同期との能力の差に悔しい思いをすることもありますが、じっくりと看護とは何かを教えてくださいと先達の方、訪問を重ねるうちに信頼関係を築き「今日もありがとう、また来てね」と言ってくださる利用者様に支えられ、徐々に1人訪問も増え、一人前の訪問看護師になるべく頑張っています。訪問看護に少しでも興味があれば訪問看護師と一緒に働いたら嬉しいです。



学術・研究活動

国際学会報告

「ICN (International Council of Nurses Congress) 2017, Barcelona, Spain」

成人・老人看護学講座 三好 陽子

2017年5月にバルセロナで開催されたICN 2017に参加しました。世界各国の看護師が集まる世界最大規模の看護学会です。私は、「Factors associated with subjective well-being of maintenance hemodialysis patients according to time on dialysis」の演題でポスター発表しました。看護という世界共通語を通して多様な価値観を持つ研究者と交流でき、とても感銘を受けました。初夏のバルセロナは、日本と変わらない気候で過ごしやすかったです。

今後も研究活動を継続し、国際発表の機会を得ることができるよう努力を重ねたいと思います。



最近の研究活動と書籍の出版

生体制御学講座 二宮 治明



研究のテーマはNiemann-Pick病 C型 (NPC) です。NPCはリポドーシスのひとつであり、脂質の輸送に関わる蛋白質の欠損により発症します。ふたつの原因遺伝子は確定しています。その遺伝子型と表現型については詳細な記載があります。しかし、基本的な問題の答えは謎のままです。まず、NPC1/NPC2というふたつの蛋白質の機能はいったい何なのか。これらの欠損がどうして脂質の輸送障害を引き起こすのか。そして、なぜ神経細胞は死んで行くのか。こういう疑問に答えたいと思っています。

学生教育では、保健学科・生命科学科の生理学の講義・実習を担当しています。「N教授の生理学講義ノート」は絶賛発売中(自画自賛)。



地域貢献活動

鳥取大学長地域貢献賞受賞

■ たのしいすぎ会

地域・精神看護学講座 高間 さとみ・雑賀 倫子

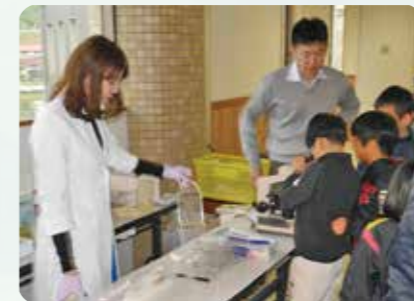
「たのしいすぎ会」は地域住民と医学部保健学科学生と教員による“防災と健康づくり”の活動を行っており、現在6年目を迎えます。学生にとって、防災や健康の知識を深めるだけでなく、住民とのかかわりによるコミュニケーション能力の向上や学年や世代を越えてのモデリングによる近い将来の成長イメージをもちやすく、さらに地域志向の高まりの機会となっています。鳥取県中部地震の際には、これまでの活動を活かし、被災地の戸別訪問活動や生活不活発病予防のサロン活動を展開し、ソロプチスト日本財団から活動が評価され、2017年学生ボランティア賞を受賞しました。今後もぬくもりを感じあえる活動を継続的に展開していきたいと思っています。



にちなんふる里まつり 出前科学実験教室

生体制御学講座 仲宗根 真恵

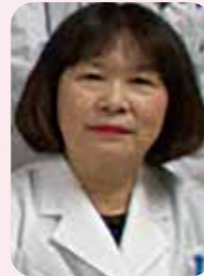
鳥取大学と日南町の連携事業の一環として、毎年日南町で開催される「にちなんふる里まつり」に出前科学実験教室を出展しています。今年度は、医学部・生命機能センターの専門家を中心に、8講座が実施されました。私の担当するブース「細胞・遺伝子を観察しよう」では、体の基本単位である細胞を顕微鏡下で観察した後、口の中の粘膜細胞から自分自身のDNAを試験管内で抽出します。そして、抽出したDNAはペンダントとして持ち帰ってもらいます。小学生を中心に、町民の方々に科学の楽しさが伝わればと思っています。



新任・退職教員からのメッセージ

鳥取大学における41年間

病態検査学講座 山田 貞子



長崎大学薬学部大学院を修了し、女性の就職が厳しい時代でしたが鳥取大学の先生から声を掛けていただき医学部で勤務するようになりました。医学科に21年間、医療短大に2年間そして保健学科に18年間在籍しました。保健学科設立時より在職し、検査技術科学専攻で臨床化学、検体検査学などの講義・実習を担当しました。

保健学科では学生と教員の距離が近く、就職や進学の相談で部屋に来る学生と話し込み有意義な時間を過ごしました。

また、課題研究関連の演題を地方学会で学生と一緒に発表し、高知、高松、下関、岡山、松江、鳥取を訪れたのも楽しい思い出です。

長く勤務できましたのは保健学科の諸先生、職員の方々のご支援の賜物と思います。謹んでお礼を申し上げます。有難うございました。

新任教員紹介

地域・精神看護学講座 安部 由紀



私は平成29年10月より地域・精神看護学講座に着任し、ただいま精神看護学実習および在宅看護学実習に携わせて頂いております。前職は地域包括支援センターで地域に暮らす高齢者をはじめ精神疾患や認知症、終末期を在宅で迎えられる住民さんに関わらせて頂きました。そこには今まで知らなかった多くの厳しい現実もありました。実習などを通して学生に問いかけながら、自分自身もニーズの広がる看護について学んでいかなければと考えております。今後、ご指導いただくこともあるかと存じますが、どうぞよろしくお願いいたします。

成人・老人看護学講座 長谷川 慶幸



平成29年10月より、成人・老人看護学講座の助教に着任致しました長谷川慶幸です。着任前は、鳥取大学医学部附属病院で看護師として働いていました。一次救命処置に関する事を研究テーマとしています。現在、一次救命処置を学ぶ機会は、自動車学校や中学、高校など増えてきていますが、いざ目の前で人が倒れたという場面で行動を起こすことのできる人は多くありません。少しでも多くの人が一次救命処置を実施できるように研究していきたいと考えています。

看護は、疾患について理解するだけでなく、病を持つ患者さんの気持ちを十分に理解し、寄り添うことが大切だと思います。教員として、学生と共に、患者さんについて考え、成長していきたいと考えています。

平成29年度 卒業研究演題一覧

■基礎看護学講座

1. 患者とその家族の人工栄養をめぐる選択をどう支えるか
2. ダウン症と診断告知された母親の心理についての文献検討
3. 50歳代健康男性を対象とした森林浴による生理的・心理的反応の変化
4. ホルモン療法をしている乳がん患者の日常生活の実態と看護
5. 整形外科疾患患者のリハビリテーションに対する自己効力感に影響する要因の検討
6. 下肢手術後の離床における看護師および理学療法士の臨床判断の特徴

■成人・老人看護学講座

1. 認知症高齢者を看護する看護師の困難感とその対応に関する文献検討
2. 慢性病を持つ患者の心理的特徴に関する文献的研究-病状の経過が異なる4つの慢性病の共通性および相違性-
3. ICN(感染管理看護師)の院内活動に関する文献検討
4. 乳がん患者のがん告知から再発・転移における心理過程に関するメタ統合
5. がん患者の終末期における家族看護に関する文献検討-看護師による家族看護と家族ニーズの視点からの内容分析-
6. がん患者を受け持った学生の家族看護観の変容

■母性・小児家族看護学講座

1. 鳥取県のマタニティハラスメントの実態
2. NICU/GCUの入院患児のきょうだいへの支援に関する看護師の認識に関する研究
3. 鳥取県内の分娩機能を持つ施設の災害に対する備えの実態に関する研究
4. 大学生における自己開示方法の影響要因
5. 看護女子学生における産婦人科に対するイメージと子宮頸がん検診受診の関連
6. 乳児期のメディア接触が及ぼす影響に対する母親の意識調査
7. 小児の食習慣と偏食の現状
8. 小児の食習慣形成に関連する要因の分析:幼児期と学童期の食物嗜好の比較
9. 学童期の偏食の要因について一親や保護者の偏食や家庭での対応に着目して一

■地域・精神看護学講座

1. 在宅療養高齢者を介護する家族への介護継続支援を目的とした訪問看護師の直接的援助についての文献検討
2. 訪問看護師が自宅で家族の看取りを通して抱いた思いについての調査研究
3. 看護学生のかくれ不眠と居眠りの関連とその要因について
4. 精神疾患による活動意欲の低下がみられる患者へ作業療法を促す場面における作業療法士の行動の意図
5. 主観的健康感と転倒不安およびロコモティブシンドロームとの関連
6. セルフモニタリングを活用した中山間地域での効果的な健康づくりに関する研究~住民の主体的な健康づくり行動の継続を促進する要因の検討~
7. 中山間地域における健康を切り口とした地域づくり活動におけるリーダーの役割と意識に関する研究
~聞き取り調査から得られたリーダーの役割と意識の質的検討~

■生体制御学講座

1. 分子動力学シミュレーションによる活性化X因子の野生型と変異型の構造の比較
2. 運動と知的活動を併用した認知症予防法の有用性の評価~健常若年者での検討~
3. 認知機能の低下と生活習慣の関連性
4. 小胞体ストレス応答障害とアルツハイマー型認知症の関連性
5. 成体マウスにおける脳内神経幹細胞の局在と動態
6. NPC1依存性コレステロール輸送におけるORP11の役割

■病態検査学講座

1. 血液型判定に応用できる食物レクチンの検索
2. インフルエンザウイルスにおける遺伝子検査法の有用性
3. 三次元超音波検査による胆嚢容積測定の基礎的検討
4. 肺炎と肺癌の鑑別が困難であった剖検例の検討
5. PCR法を用いた加熱肉の肉種鑑別

平成30年度 学年暦・学級委員

■鳥取キャンパス 学年暦(1年次のみ)

事項	月日
学年開始(前期開始)	4月1日(日)
春季休業日	4月1日(日)～4月9日(月)
全学共通科目説明会	4月2日(月)
入学式・全学新入生オリエンテーション	4月6日(金)
各学部オリエンテーション	4月9日(月)
前期・第1クォーター授業開始	4月10日(火)
月曜日の振替授業	5月2日(水)
金曜日の振替授業	5月29日(火)
鳥取大学記念日	6月1日(金)
前期(第1クォーター)予備日	6月9日(土)、6月11日(月)
前期(第2クォーター)授業開始	6月12日(火)
月曜日の振替授業	7月17日(火)
前期(第2クォーター)予備日	8月8日(水)、8月9日(木)
夏季休業日	8月10日(金)～9月30日(日)
前期終了	9月30日(日)
後期開始	10月1日(月)

事項	月日
後期・第3クォーター授業開始	10月1日(月)
金曜日の振替授業	11月7日(水)
大学入試センター試験プレテスト準備による休講	11月9日(金)
水曜日の振替授業	11月20日(火)
金曜日の振替授業	11月21日(水)
後期(第3クォーター)予備日	11月29日(木)、11月30日(金)
後期(第4クォーター)授業開始	12月3日(月)
月曜日の振替授業	12月25日(火)
冬季休業日	12月27日(木)～1月7日(月)
金曜日の振替授業	1月16日(水)
大学入試センター試験準備による休講	1月18日(金)
後期(第4クォーター)予備日	2月13日(水)、2月14日(木)
卒業式	3月18日(月)
春季休業日	2月15日(金)～3月31日(日)
学年終了(後期終了)	3月31日(日)

※休業日においても授業等を実施することがあります。

■米子キャンパス 学年暦(2年次以降)

事項	月日
学年開始(前期開始)	4月1日(日)
進級生オリエンテーション	3月30日(金)
前期授業開始	4月2日(月)
鳥取大学記念日	6月1日(金)
前期授業及び試験終了	8月17日(金)
夏季休業日	8月18日(土)～9月30日(日)
前期終了	9月30日(日)
後期開始	10月1日(月)

事項	月日
後期授業開始	10月1日(月)
冬季休業日	12月29日(土)～1月6日(日)
後期授業及び試験終了	2月27日(水)
	※保健学科看護学専攻3年次は2月28日(木)
卒業式	3月1日(金)
春季休業日	2月28日(木)～3月31日(日)
	※保健学科看護学専攻3年次は3月1日(金)～3月31日(日)
学年終了(後期終了)	3月31日(日)

※都合により変更する場合があります。

■看護学専攻 学級委員

入学年度	学年	氏名	所属講座
平成30年度	1年	谷村 千華 准教授 / 野口 佳美 講師	成人・老人看護学
平成29年度	2年	笠城 典子 准教授 / 山本 陽子 助教	基礎看護学
平成28年度	3年	吉岡 伸一 教授 / 徳嶋 靖子 助教	地域・精神看護学
平成27年度	4年	南前 恵子 教授 / 池田 智子 講師	母性・小児家族看護学

■検査技術科学専攻 学級委員

入学年度	学年	氏名	所属講座
平成30年度	1年	鱈岡 直人 教授 / 佐藤 研吾 講師	病態検査学
平成29年度	2年	森 徹自 教授 / 上田 悦子 講師	生体制御学
平成28年度	3年	北村 幸郷 教授 / 下廣 壽 講師	病態検査学
平成27年度	4年	二宮 治明 教授 / 仲宗根 眞恵 助教	生体制御学

■両専攻とも1年生については、上記保健学科教員以外に、湖山キャンパスの教員数名が学級委員として学生の指導・相談の任にあっています。

平成28年度 後援会事業報告

1. 教育助成

入学関連

- 入学式
- 新入生オリエンテーション
- 新入生合宿研修
[平成28年4月16日～17日]

大学説明会関連

- オープンキャンパス
[平成28年7月30日・10月29日]

教育関連

- 新入生ふれあい朝食会
[平成28年4月11日～15日]
- 2年次学生と教員との懇談会
- 優秀学生表彰
- 看護学専攻・検査技術科学専攻へ助成
- 全学共通教育協力金へ助成

2. 国家試験対策

- 看護師等国家試験対策模試
- 臨床検査技師国家試験対策模試

3. 就職対策

- 教員による病院等の就職先への訪問

4. 医学部国際交流助成

- 国際交流協定校との交流

5. 文化行事援助

- 錦祭

6. 後援会運営

- 保健学科広報「アレスコ」発行
- 後援会役員会

平成29年度 後援会役員名簿

役職名	氏名	専攻・年次
会長	松本 繁樹	看護学専攻3年
副会長	足立 こずえ	検査技術科学専攻4年
副会長	大森 泰史	看護学専攻3年
常任理事	安田 久仁子	検査技術科学専攻4年
理事	岡田 哲憲	看護学専攻4年
理事	岩吉 明広	看護学専攻4年
理事	原 まゆみ	看護学専攻3年
理事	小林 健市	検査技術科学専攻2年
理事	加藤 道子	看護学専攻3年
理事	西村 正男	検査技術科学専攻2年
監事	小乾 敬介	検査技術科学専攻4年
監事	井上 幹朗	看護学専攻3年

役職名	氏名	役職指定
顧問	萩野 浩	保健学科長
顧問	南前 恵子	医学部学生生活委員会委員(看護)
顧問	谷村 千華	医学部学生生活委員会委員(看護)
顧問	浦上 克哉	医学部学生生活委員会委員(検査)
顧問	藤原 伸一	医学部学生生活委員会委員(検査)
会計	柴田 栄治	学務課長